

歴史散歩

69

井関石の石造物

かつて一志町を中心に産出した砂岩は、「井関石」とも呼ばれ、地域の特産品でした。この石は加工がしやすいことから、周辺の常夜燈や民家の土台石などによく使われていました。

今回は市内にある井関石の石造物を紹介します。

地藏院の石棺地蔵（中河原）



半分が地中に埋められている地藏院の石棺地蔵

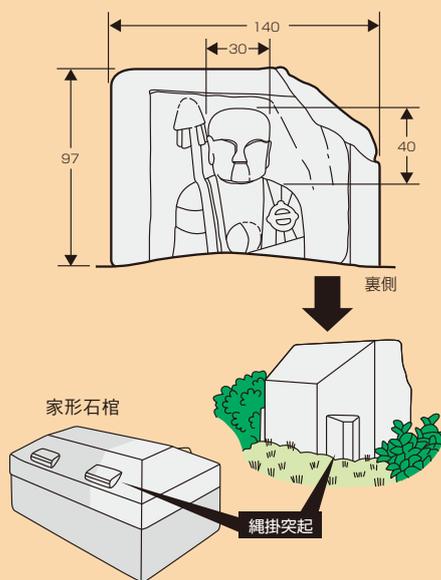
中河原に「子安地蔵」で知られる地藏院があります。

境内の西側にタモの巨木があり、そのもとに大きな家形石棺を再利用した石

棺地蔵が祭られています。6世紀に造られた石棺は、縦に据えられ、その内側に素朴で大柄な地蔵が彫られています。この石棺は幅が140センチメートルあり、一志町井関にある県指定文化財「延命寺の石棺」（幅100センチメートル×長さ210センチメートル）よりも幅が広いことから、県内最大の家形石棺と考え

られます。裏側には図のような縄掛突起の一部が残っていて、石棺のふたであることがよく分かります。

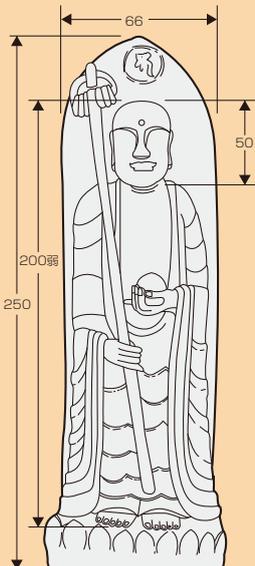
石棺地蔵の大きさ(単位：センチメートル)



成願寺の石造物（白山町）

白山町上ノ村にある成願寺には、境内にくつつかの巨大な石造物がみられます。中でも山門の右側には、身長約200センチメートルの地蔵が建てられ、永正16（1519）年と記されています。板石の地蔵としては県内最大級と考えられます。また山門の左側には、不動明王が建てられ、享保20（1735）年の銘があります。両者は昭和33年に山門へ移されたもので、それ以前は境内に祭られていたようです。

成願寺の地蔵の大きさ(単位：センチメートル)



成願寺の山門に不動明王と並んで建つ地蔵

今回紹介した石造物は、いずれも最大40センチメートルの厚さの井関石が用いられています。その素朴で大柄な造りから、何とも言えぬ表情があり、地域の人々から親しまれています。

